04　犬山市継鹿尾・寂光院

愛知県の北部の犬山市，小牧市，春日井市付近には美濃丹波帯の主にジュラ紀付加体が分布しています。犬山市継鹿尾，寂光院周辺には美濃帯の主にチャートが分布しており，チャート層には滝や断層鏡肌も見られます。

大きな断層や，岩石のでき方，できた年代とその後の歴史などによって，地域の岩石（地質）を区分して呼ぶことがあります（構造帯）。美濃帯はその一つで，北側の飛騨外縁帯と南側の領家帯との間に分布する構造帯で，長野県木曽地方から岐阜県飛騨～美濃地方を経て，愛知県尾張地方を通り，さらに養老・鈴鹿山地にかけて断続的に分布しています。美濃丹波帯は，古生代～中生代の海洋や湖沼などでできた堆積岩類が合わさってできており，中生代ジュラ紀頃に形成された付加体と考えられています。足尾帯も含めることもあります。

木曽川沿いの不老公園には，「日本ライン」の名付け親の志賀重昂（しげたか）の碑（図 3）があり，さらに名古屋市の上水道の取水口があります。志賀重昂は岡崎に岡崎藩士の子として生まれ，札幌農学校で農学士（地質学・気象学・植物学・農学などを修めた）を得たあと，明治～大正にかけて活躍した地理学者，政治家，国粋保存主義者として知られています。図 4 のような景色を船上から見て木曽川をライン川になぞらえたようです。「恵那峡」も彼が名付け親です。



図 1　ポイント（地理院地図に加筆）

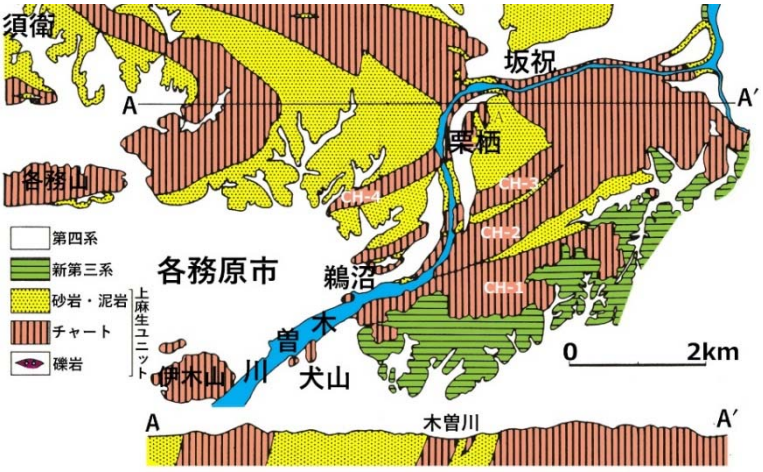


図 2　地質図（日本の地質「中部地方 II」編集委，1988）



図 3　志賀重昂の碑



図 4　木曽川の左岸にみえるのが犬山城

不老公園のそばに，不老の滝や寂光院があります（図 1）。
不老の滝はチャートに架かる滝です（図 5：図 1F）。上流側には砂岩泥岩が見られます。寂光院は紅葉の名所として知られ，本堂周辺では「層状チャート」がよく見られます（図 6：図 1J）

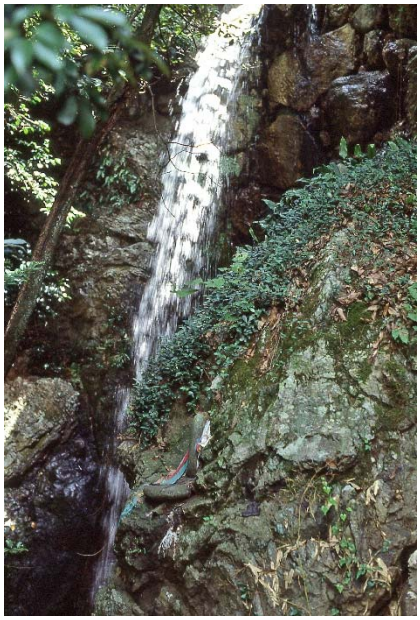


図 5（左）不老の滝



図 6（上）寂光院のチャート

寂光院の入り口付近には継鹿尾礫岩と呼ばれた地層も見られます（図 7：図 1T）。非常に淘汰が悪い礫岩で，詳細はわかっていません。可児盆地発生期の周縁相，蜂屋層か中村層の一部などの考えがあります。
犬山城はチャートの山に建つ城です。城が建つ山麓の木曽川沿いにはチャートが見られます（図 8）。また，城の石垣にはチャートがよく使われています（図 9）
図 1 の城山も暗赤色の層状チャートからできています。成田山新勝寺名古屋別院（図 1N）でも境内には層状チャートがよく見られます（図 10）



図 7　継鹿尾礫層（図 1：T）



図 8　犬山城の建つ山麓のチャート



図 9　犬山城の石垣　チャートが多い



図 10　成田山境内のチャート層



図 11　断層鏡肌

犬山モンキーパーク内でもところどころにチャート層が顔を出しています。

名鉄の犬山遊園駅のすぐ北（犬山橋南詰）に明治 4 年まで「内田の渡し」があり常夜灯が残っています。そこから東側の木曽川沿いの道を 100ｍほど行くと，右手の谷にチャートを切る断層があります（図 1ｚ）。大きくきれいな断層鏡肌（図 11）が見られます。以前は自由に入れたのですが，現在は入りにくくなっています。

なお，不老公園の対岸の岐阜県各務原市の川原には，酸欠状態から酸素が増加したことを示す三畳紀の有名な露頭があります（あいちの地質 99　01 参照）。

さらに，その南側の川原（図 13：図 1M）では豊富な放散虫化石を含むマンガンノジュールが多く見られましたが，現在は採取されたためか，河原に埋積したためか見られなくなってしまいました。



図 12　マンガンノジュール



図 13　マンガンノジュールを割ったもの



図 14　マンガンノジュールから取り出した放散虫化石

参考文献

村松憲一，2019，愛知県の地質とジオサイト．189p.
日本の地質「中部地方Ⅱ」編集委員会，1988，日本の地質 5　中部地方Ⅱ．共立出版.

【村松憲一】